

わんにゃん通信 9月号

まだまだ夏の暑さが続き、エアコンが手放せないのが続いています…
はやく涼しくならないかなあ…

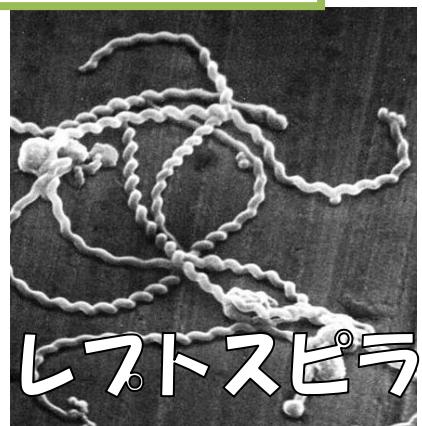
今回は涼しくなると多くのアウトドアや台風が増えるこの時期に
特に注意して欲しいレプトスピラ症のお話です。



レプトスピラ症とは？

レプトスピラ感染症は「レプトスピラ」という種類の細菌が原因で起こる病気です。また、人も感染する人畜共通感染症です。かかってしまうと、わんちゃんの致死率は50%であつという間になくなってしまう、おそろしい感染症になります。無事に生き延びても、慢性腎障害になり、寿命をまっとうできなくなる可能性があります。感染症法では4類感染症に指定され、家畜伝染病予防法では届け出が義務付けられています。

淡水や、湿った土壌で数か月生存できて
環境温度が15–36度で生存・増殖が活発になります
250以上の血清型がありますが、その中でも犬で問題
になるのは8~10の血清型と言われています。



原因

おもな感染経路は、感染したネズミなどの野生動物になります。

こうした感染した野生動物の尿で汚染された河川の水や土壌に接触すると、皮膚や粘膜、口などから感染します。

山や川で活動に動き回ることが好きな子は、感染してしまう機会が多くなります。散歩中に過度にニオイ嗅ぎをしたり、舐めたりする癖がある子は注意が必要です。

また、たくさんの大が集まるドックランやキャンプ場の土壌が、汚染されている可能性もありますので、ご注意ください。気温が高いと菌は数か月そこに生存しますので感染する可能性があります。



症状

- ・発熱
- ・食欲不振、元気消失
- ・嘔吐
- ・黄疸(歯茎などの粘膜や皮膚が黄色くなる)
- ・血便、黒色の便(タール便)が出る
- ・急性腎不全と肝臓障害

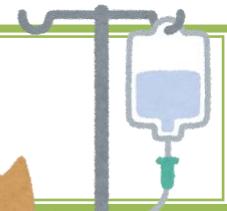


症状が進行し多臓器不全になる重症例多く、死に至ることもあります。

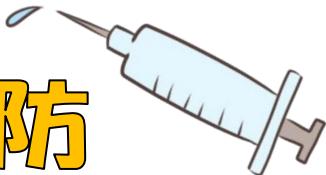
治療

細菌による感染症のため抗生素の投与が必要になります。

また腎不全や肝不全を起こしている場合では輸液による治療も行います。



予防



ワクチンでの予防になりますが、犬には8-10種類の血清型が病原性があるといわれています。そのうち、ワクチンで予防できるのは4種類のみになります。そのため、ワクチンを打っていたとしても水場や湿った土壌、大雨の後などの散歩時には注意しましょう。

ちょっと余談

Q. 猫ではあまり聞かない病気だけど、猫にも感染するの？

A. 猫にも感染します！



猫は犬と比べて感染しても症状が出にくい、あるいは症状の出ない不顕性感染で済むことが多いです。
お外にいく飼い猫ちゃんの3%で尿のレプトスピラが陽性、9%で抗体陽性といわれてるそうです。